

安土城懷古（榛葉竹庭）

虎將英威撼大寰 七層樓閣聳雲間

憐君不顧蕭牆內 空築金城備外姦

虎將の 英威 大寰を 撼るがし

解説 織田信長は各方面に出陣可能な水陸の交通の要地である安土に城を築いた。ところが、築城後六年にして本能寺に於いて不運な最後を遂げた。

七層の 樓閣 雲間に 聳ゆ

語釈 ※虎將Ⅱ勇將。※英威Ⅱ勝れた勢力。※大寰Ⅱ天下。※蕭牆Ⅱかこい。※金城Ⅱ堅固な城。※外姦Ⅱ外敵。

憐れむ 君が 蕭牆の 内を 顧みず

通釈 信長の勢力は天下に鳴り響き、七層の天守閣が中央にそそり立っていたという。ところが、信長ほどの人物が一向に内部を顧みることなく、空しく外敵に備えて安土に堅固な城を築き、程なく本能寺の火中に消え去ったことは、誠に憐れむべきことであった。

空しく 金城を 築いて 外姦に 備うるを